



現場に活かす、  
パーソン・センタード・ケア

PERSON-CENTRED CARE



認知症介護研究・研修大府センター



## 認知症ケアの 目標はなんですか？

- ◎きれいに、安全に、食事(カロリー)をとって  
確かに基本で重要ですが、  
でも、それだけでは…
- ◎「できないこと」を援助して「できるようにすること」  
(能力の発揮?)ですが  
確かに、りっぱです。でも、…

## 「もう、だめですね」

- ◎アルツハイマー病だと伝えると、「もう、だめですね」と  
落胆される方がいます  
「どんどん点が下がっていくんですよね」  
「徘徊、大声、おしっこを漏らしたりするんですよね」  
でも、認知症が進んでも、なぜか、ますますお元気になるようになっていくような方もいます  
どうしてなのでしょう？

# 「自覚がなくて、困る」とおっしゃる方がいます

- 「こんなになってしまって、主人に申し訳ないから、何もしないようにしています」  
(50代アルツハイマー病主婦)
- 「話がわからないから、旅行やめました」  
(70代アルツハイマー病男性)
- 「どうしてこんなにわるくなっていくんだろう」「みんなに迷惑がかかるから、どうしてか聞きたい」  
(80代アルツハイマー病女性)

これらは、すべて認知症を抱えた方々の声です  
自覚がない人が、怒ったり、落ち込んだり  
するでしょうか

## ウソをつくから、困る

「毎日、暮会所にいってます」

……………いいえ、デイサービスに行っているのをわからないだけです

「一人暮らしですから、全部自分でやっています」

……………いいえ、ご飯が作れないから、運んでいるでしょ

「ウソ」? なののでしょうか?

ご本人としては、暮会所に行っているのではないのでしょうか

パーソン・センタード・ケアでは、  
ご本人がどのように感じているかを、  
もっとも大事に考えています



## ひとりの人として 周囲に受け入れられ、 尊重されること

ひとりの人として、周囲の人や社会と関わりを持ち、受け入れられ、尊重され、それを実感している、その人のありさま。  
人として、相手の気持ちを大事にし、尊敬しあうこと。  
互いに思いやり、寄り添い、信頼しあう、相互関係を含む概念

(出典：パーソン・センタード・ケアと認知症ケアマッピング 第8版 日本語版第3版)

故トム・キットウッド教授(英国)は、このように感じている、  
ご本人の気持ちのありさまを、『パーソンフッド』と呼び、  
パーソン・センタード・ケアの根幹の考えとしました

## 認知症は、 「脳の病気」ですか？

- ◎それは事実でしょう
- ◎では、認知症を抱えた人の言動、行動は、「脳の問題」からきているのでしょうか？

「よく怒るんですが、認知症が進んだのでしょうか？」

「最近、よく食べるんです。」

「認知症が進んだのでしょうか？」

## 何かあると、『薬があっていない』と デイサービスで言われるんです(家族の声)

「脳の病気」なら、医師が、薬や点滴や、放射線治療などで、  
治療を試みるでしょうし、指示を仰ぐしかないでしょう  
しかし、…

- 認知症を抱えた人の、不安・怒り・あせり…  
を薬で治療できるのでしょうか？
- 本当に、「脳だけ」の問題ですか？

その他にも、いろいろ考えるべきことがあるのではないのでしょうか？

- 脳の障害、病気：ケガ、脳出血、腫瘍
- 幻覚、精神病との区別
- 体調、病気、身体機能（目、耳）
- どんな人生を歩んできたか（本人の中の事実）
- 性格、気質
- 周囲の人との関係

## よい状態とは？

よい状態でいてほしいですか？

よい状態＝記憶力がドンドンよくなること？

もし、そうなら、わたしたちや皆さん全員が、不幸で記憶力だけではないでしょう

よい状態とは…

生き生きとしていることではないのでしょうか？

「よい状態⇔楽な状態（負担感がすくない）」ですか？

「負担感が多い⇒よくない状態」と考えると…

「負担感を減らそう」と考えがちです

⇒鎮静剤で静かにしよう、隔離・抑制しよう…

と考えがちです

負担感を基準にする危険

- その日の気持ち、いらいら、  
忙しさで異なる
- 人によって異なる



## よい状態の目安(サイン)

- ある程度の基準を持っていれば、流されない
- 表現できること
- ゆったりしていること
- 周囲の人に対する思いやり
- ユーモア
- 創造的な自己表現
- 喜びの表現
- 人に何かをしてあげようとする
- 自分から社会と接触すること
- 愛情を示すこと
- 自尊心 (汚れ、乱れを気にする)
- あらゆる種類の感情を表現すること

## 問題となる行動?

- 言葉が出せず、自ら動くことができず、手も伸ばせなかったら、「問題」も起きないでしょう  
言葉が出せて、自分の体を思うところに移動できて、手を動かすことができるから… 起きるのではないでしょうか
- 「問題⇄コミュニケーション」は、表裏一体です  
ある行動は、「よくない状態」にもなるし、「よい状態」にもなるかもしれない  
過度の薬剤や、手足を縛りつけることは、これらの可能性を奪うことになるのではないでしょうか

## よくない状態に向かわせる状況

- だましたり、あざむくこと
- 能力を使わせない
- こども扱いすること
- 怖がらせること
- 急がせること
- わかろうとしないこと
- のけ者にすること
- 人扱いしないこと
- 無視すること
- 強制すること
- 後回しにすること
- 非難すること
- 中断させること
- あざげること
- 侮辱すること  
など



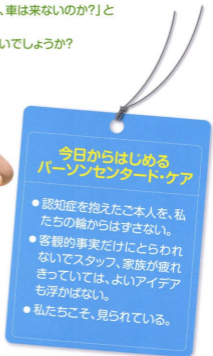
## ケアの質は、職場の雰囲気しだい

### ◎悪性の社会心理

やっているその人が、必ずしも悪いわけではないでしょう  
誰かがやっていたことを見て、自然に身につけてしまった…とか  
そのような教育（刷り込み）を受けてきた…かもしれないのです  
実際、ハード面（食堂が狭い…）や、システム上の問題（配膳の時間…）から、  
つい「急がせたり」、「強制」したりすることは、  
その人のせいではないでしょう

でも、怒らせたって、  
認知症なんだから、どうせ忘れるでしょ！  
……本当ですか？

デイサービスに、今日行ったことさえ、忘れてる人が、  
デイサービスがお休みの日、「今日は、車は来ないのか？」と  
ご家族に聞きました  
何かが、ご本人の中に、残るのではないのでしょうか？





## 現場に活かす、 パーソン・センタード・ケア

PERSON-CENTRED CARE

---

### 認知症とともに生きる

社会医療法人 杏華会いまいせ心療センター診療部長

認知症介護研究・研修大府センターDCM推進室

受診のご相談は TEL:0586-45-2531

監修/水野 裕

NPO法人「その人を中心とした認知症ケアを考える会」代表

認知症介護研究・研修大府センターDCM推進室マネージャー

村田康子

認知症介護研究・研修大府センター研修部研修指導主幹

中村裕子

DCM関連サイト

DCNET : <http://www.dcnet.gr.jp/>

無断転写・転記・複写を禁ず。

このパンフレットは独立行政法人福祉医療機構「長寿・社会福祉基金」助成事業により作成されたものです。